



経営探訪
Management Report

株式会社
三井光機製作所 秋田工場

研磨からセンサー接合まで 一気通貫での製造を行う

秋田工場設立から30年余り
従業員の実直さが
唯一無二の技術力を支える

創業は昭和26年。東京都杉並区で鏡などのガラスの平面研磨事業をスタートさせた創業者は、現在の代表である三井辰郎さんの祖父にあたる。ガラスを研磨する技術に特化していたが、先代の父の時代、空気と水が綺麗な秋田に工場を設立した。プリズム・レンズの製造、加えて薄膜コーティング加工（蒸着）、接着剤を使わないプリズムの接合まで、すべて自社で製造ができる三井光機製作所のこれまでの歩みについて伺った。

研磨からコーティング、組立、センサー接合
すべてを自社で賄う技術

光学ガラス製品には球面と平面の2種類がある。三井光機製作所では、主に平面、いわゆるプリズムの加工を手掛けている。平成2年に県の誘致企業として七曲臨空港工業団地に秋田工場を設立。創業時はプリズムの製造、その後レンズの研磨加工を行っていたが、現在は研磨に加えて薄膜コーティング加工（蒸着）やセンサー接合までを対応する、世界のトップランナーである。

「実は蒸着加工は当初、栃木県大田原市の工場で行っていたのですが、リーマンショックが起きました。工場を統合するか、

あるいは失くしてしまうか。進むも戻るも地獄、という状態で、経営判断としてはとても難しかった。どうせなら進みましょうというので、蒸着加工については秋田工場に統合することになりました。」

秋田の人は我慢強い。
職人気質な県民性が合う。

この選択が良い方向に転じた、と三井さんは振り返る。

「秋田の県民性は、我慢強く、職人気質な人が多いと感じます。それがこのプリズム加工の現場には絶妙にマッチしているんです。プリズムを研磨すること、蒸着加工をすること、そしてセンサーをプリズムに貼り合わせる加工。すべて従業員が根気強く取り組んだことで、全体の技術力が上がったと感じています。」

今から10年前、三井さんが代表に就任。それまで主に請け負ってきたのは民生用部品の製造だったが、クライアントの戦略転換などにより、受注量が安定しないことが不安要素だったという。

「民生用はトレンドの移り変わりが激しいことが挙げられます。受注量が安定しないと、安定的な経営が難しい。そこで業務用分野にシフトチェンジを行いました。」

更に上を目指したい。
その思いを従業員にも共有

東日本大震災の際には、復興資金により設備投資に対する補助を受けることができた。



内視鏡のレンズ加工を始め、医療機器のレンズ加工やセンサー接合なども行っている。ミクロンという単位でのセンサー接合は、三井光機製作所が誇る技術だ。

「新たな機器を導入したことで、蒸着加工やセンサー接合加工ができるようになりました。それにより、付加価値を付けて単価を上げられたんです。」

コロナ禍では、一旦は産業用向けの需要が落ち込むなど影響があったものの、医療用分野の需要が増えたことで大きな影響を受けることなく乗り切ることができた。あきた企業活性化センターを通じて国の競争的研究開発資金を活用し、新たな技術開発なども行っている。その技術を活用し、NHK放送技術研究所とともに放送用カメラの新しいフィルターの開発にこぎつけたという。

「コロナ禍で海外展開も足踏み状態でしたが、今年からは再開ができそうです。会社としても新規事業を立ち上げる予定で、農業用カメラの開発を手掛けているところです。従業員にも、更に上を目指していこうと、思いを共有するよう心がけています。」

秋田が農業県だからこそ、農業分野に貢献したいと語る三井さん。秋田の県民性が支える、世界に通用する技術をこれからも高めていくことだろう。



秋田工場の従業員は80名ほど。企業全体で100名というから、秋田工場の割合が多くを占めていることがわかる。



株式会社 三井光機製作所 秋田工場
代表取締役 三井 辰郎

〒019-2611
秋田市河辺戸島字七曲台120-21
TEL:018-882-2995 FAX:018-882-2048
http://www.mitsui-om.co.jp/

◎業務内容 各種光学プリズムの
研磨・蒸着・接合及び組立。
光学ユニットの製造。